

「地学教育と科学運動」投稿規程

(2023年7月一部改訂)

「地学教育と科学運動」投稿から印刷までの流れ

- ① 原稿の投稿 → 電子ファイル（メール添付、CD等、またはファイル転送サービスを利用）
- ② 原稿の受付 → 受付通知の送付
- ③ 査読者の選定：編集事務局が2名の査読者を選定する → 原稿の発送 → 査読（3週間以内） → 原稿の返送
- ④ 査読内容の確認：第一査読者が査読内容を確認する → 著者への査読結果の発送 → 修正検討
- ⑤ 修正稿の返送：著者は査読結果を受けとり原稿修正後に修正稿を返送する（原稿送付先：第一査読者に電子ファイルで返送）
- ⑥ 修正稿の受領：第一査読者が修正内容を確認する → （必要に応じて）再査読へ
- ⑦ 編集委員会（メール審議；1週間程度） → 受理の決定、受理通知 → 入稿原稿（電子ファイル）の要求
- ⑧ 入稿 → 著者校正：原則1回 → 編集校正（2～3回） → 印刷

投稿規程

1. 掲載される原稿

投稿資格—投稿者の少なくとも一人は地学団体研究会の会員であること。ただし、編集委員会が原稿を依頼した場合はこの限りではない。

掲載原稿の採否—内容が本誌に掲載することが適切と編集委員会が認めたもの。

原稿の種目—地学教育と科学運動にかかわる論文・実践報告・総説・教材研究・アイデア・ノート・紹介・資料・本のあんない・読書のすすめ・花綵通信・ゆく雲にたくして・地学ハイキング—北から南から・私の教材・応用地質の現場から・なかまと歩く—団研アルバム・マイストーン・支部報より・この一枚、その他。

原稿の長さ—刷り上がり頁を10頁までとし、最大でも14頁とする。本のあんない・読書のすすめは刷り上がり1頁まで、花綵通信・ゆく雲にたくして・地学ハイキング北から南から・私の教材・応用地質の現場から・なかまと歩く—団研アルバム・支部報よりは原則として刷り上がり2頁まで、マイストーンは刷り上がり1/2頁程度まで、この一枚は写真を含めて原則1/2頁。

学術的研究の成果を中心にした原稿は『地球科学』に投稿する。

2. 原稿の書き方

原稿用紙—原稿フォーマットを地団研のWebページからダウンロードすることができる (https://www.chidanken.jp/09_1.html)。原稿は原則としてワープロを使用し、A4判に横書き 38字×29行（刷り上がり1/2頁分）でレイアウトし、ページ数を入れる。手書き原稿の場合は編集事務局に相談する。図表は、本文原稿の右余白に、挿入箇所を明示する。

文体等—原則として当用漢字を用いる。ただし、固有名詞や慣用語はこの限りでない。難読の地名などにはふりがなをつける。

コマ数—ひらがな・カタカナ・漢字・カッコ・句読点はワープロの全角、ローマ字と数字は半角。

単位—数量の単位は、原則としてSI単位および地球科学で慣用される単位。

年代表示—原則として西暦年を使用。元号は不可。ただし歴史的意味等のあるものは、下記のように併記。
例：慶応3（1867）年または、1867（慶応3）年
今年、3年前等 → 西暦年にする

口頭発表した原稿—学会・研究会等で既に口頭発表した原稿は、その旨を脚注に明記。

所属支部・所属機関—著者が地団研会員である場合は、その所属支部を脚注に明記し、著者の所属機関とその住所を表記する。団研等グループでの原稿の際は代表者の氏名・所属機関とその住所を表記する。所属機関のない場合、メールアドレスを明記。

柱—論文・実践報告・総説・教材研究・アイデア・ノート・紹介・資料・その他には、柱（各頁上部欄外の著者名と論文表題）の原稿をつける。著者名と論文表題はそれぞれ30字以内。

表題と著者名・脚注—論文・実践報告・総説等は、脚注を含めて13行分とする。花綵通信等その他の原稿は、表題・著者名・所属支部で7行分とする。

見出し—見出しには原則として番号を付けない。

論文・実践報告・総説等 大見出し：2行どりでセンタリング。中見出し：ゴシック体指定、左詰で改行。小見出し：ゴシック体指定で1字あけて本文。これ

以下の小見出しは、著者が必要に応じてつける。

花綵通信等その他の原稿 中見出しから始める。

図・表の作成—電子データ化したものを印刷原稿にする。図の内容で大きさの表示が必要なものは、スケールを表示。

図・表の大きさ—製版の際に縮小する場合、文字・模様の高さや線の太さに注意。刷り上がりの大きさは著者が指定。原寸～70%が最適。50%以下に縮小するような原図は望ましくない。図の最大は、刷り上がり見開き頁（A3判）まで。

図・表およびその説明—図・表およびその説明文は、本文の文献の頁以降に番号順にまとめて書く。本文原稿の欄外に図・表の挿入箇所を赤字で明示。1図・表を1頁ごとに貼り付け、それぞれの頁に、著者名と図・表番号を記入。図・表の示し方は、**第1図・第1表**のようにし、ゴシック体指定。カラー印刷を希望する場合は、「カラー」と朱記する。

地形図—原図としてそのまま使用（コピーを含む）する場合は次のように明示する。

例：この地図は、国土地理院発行2万5千分の1地形図「東京南部」を使用したものである。

印刷字体の指定—著者が指定。イタリック体：赤で1本の下線、ゴシック体：赤1本の波型下線、数字などでは上ツキ・下ツキ・大文字・小文字を指定、ギリシャ文字等で誤植しやすいものも赤字で指定した方がよい。なお、文中の図・表の参照の指示は、ゴシック体。

例；**第1図**は……。 …… (**第1表**)。

本文中の文献引用—下記の例に倣う。

秋山(1994)は、 ……

田崎・高須(1995)によると、 ……

鶴浦ほか(2003)は、 ……

……とされている(金井2003, 2004; 東1999)。

Hirai & Kondo(2002) ……

Koizumi et al.(2000) ……

…… (Miyagi et al. 1998)

Webページの引用は下記のようにする。

環境省HPは、 ……

…… (環境省HP)。

引用文献リスト—末尾に文献として一括。著者名のABC順、同一著者名の場合は公表年順、同年のものはa, bを付ける。雑誌名は、慣用的な略記にしたがう。文字の大きさを1ポイント落とす。参考文献は

不要。Webページは閲覧年月を示す。

[文献リストの例]

文 献

房総研グループ(1963)黒滝不整合における削剥量とその意義。地質雑, 69, 88-89.

藤田至則(1973a)新生代後期の日本列島における造構力の解析をめぐって。地球科学, 27, 245-249.

藤田至則(1973b)日本列島の成立。築地書館, 247p.

Hujita K(1969) Tectonic development of southwest Japan in the Quaternary Period. Jour Geosci Osaka City Univ, 12, 53-70.

Ikebe N and Chiji M(1969) Neogene biostratigraphy and geochronology in Japan. Occas Pap Osaka Mus Nat Hist, 1, 25-34.

環境省HP 中間貯蔵施設情報サイト。http://josen.env.go.jp/chukanchozou/facility/effort/ (2022年1月閲覧)

環境省・復興庁(2014)中間貯蔵施設等に係る対応について。http://josen.env.go.jp/chukanchozou/action/acceptance_request/pdf/correspondence_140728_01.pdf (2022年1月閲覧)

Ramberg H(1981) Gravity, Deformation and the Earth's Crust: In Theory, experiments and geological application. Academic Press, London, 452p.

Seely DR(1977) The significance of landward vergence and oblique structural trends on trench inner slopes. In: Talwani M and Pitman WC (eds), Island Arcs, Deep Sea Trenches and Back-Arc Basins, 187-198, Amer Geophys Union, Washington.

津久井雅志・柵山雅則(1981)大山山麓における三瓶山起源の降下軽石層の発見とその意義。地質雑, 87, 559-562.

3. 投稿の手続き・処理

a. 投稿する際は「本文、図・表(印刷時の大きさに縮小したもの)、図表説明文、柱」をまとめた原稿ファイル(MS Word 2007以降、またはテキストファイル)、投稿原稿チェックシート、原稿整理カードの3つの電子ファイル一式を、投稿先宛に送付する。送付する際には、全体で10MB以内になるよう調整する。ただし、図が粗くなり査読に支障をきたすよう

な場合は、画素数の多い画像データを依頼することがある。

原稿フォーマット、投稿原稿チェックシート、原稿整理カードは地団研の Web ページからダウンロードすることができる (https://www.chidanken.jp/09_1.html)。

電子原稿以外での投稿は原則として不可。紙媒体での投稿については、事前に編集事務局に相談する。

送付時のメール件名に「地学教育と科学運動投稿」と書き、「原稿」、「投稿原稿チェックシート」、「原稿整理カード」の3つを添付したメールを下記編集事務局宛に送信するか、CD 等の媒体を郵送する。または、ファイル転送サービスを利用する。

- b. 原稿が編集委員会に到着し、受付を確認した日を受付年月日、完成原稿が到着し、編集委員会が掲載を妥当と認めた日を受付年月日とする。
- c. 受け付けた原稿は会員または非会員によって査読される。査読の結果を参考に、編集委員会は著者に原稿の修正・訂正を求めることができる。
- d. 掲載後の投稿原稿は原則として返却しない。ただし前もって請求があれば、図・表の原図については返却可能。
- e. 著者による校正は初校のみ。この際も原稿は返送されない。必ずコピーを取っておく。また、本のあんない・読書のすすめ・花綵通信・ゆく雲にたくして・地学ハイキング北から南から・私の教材・応用地質の現場から・なかまと歩く一団研アルバム・マイストーン・支部報より・この一枚の原稿については、原則として編集委員会で校正する。

f. 制限頁数を超過した分及びカラー頁の実費は著者が負担する。この一枚のカラーは、無料。

g. カラー図表類の扱いは、以下のようにする。

カラー印刷の希望があり、編集委員会がカラーでの掲載を妥当と判断した場合、2 頁までを無料とする。2 頁を超えた分については、著者負担とし、2 頁ごとに 2 万円。

カラー印刷が妥当かどうかの判断基準：カラー印刷にしないと表現が難しい図面

調査風景のようなスナップ写真等については、原則としてモノクロとする。

編集委員会が妥当としなかった場合は、自己負担でカラー印刷は可能。その場合は、2 頁ごとに 2 万円。

「2 頁まで無料」は、年間 2 号分で 10 件を上限とする。

別刷りは、カラー頁 1 頁を 2 頁とカウントする。

h. 本誌掲載の原稿は、原則として J-STAGE に掲載する。

i. この規定で処理できない問題が生じた時は、事の性質に応じて、編集委員会で処理される。

『地学教育と科学運動』の投稿先（編集事務局）

chitoka_nagano@googlegroups.com

電子投稿できない場合の投稿先

〒386-8715

長野県上田市大手 1-4-32 長野県上田高等学校

小林和宏 宛

原稿は常時受け付けています。